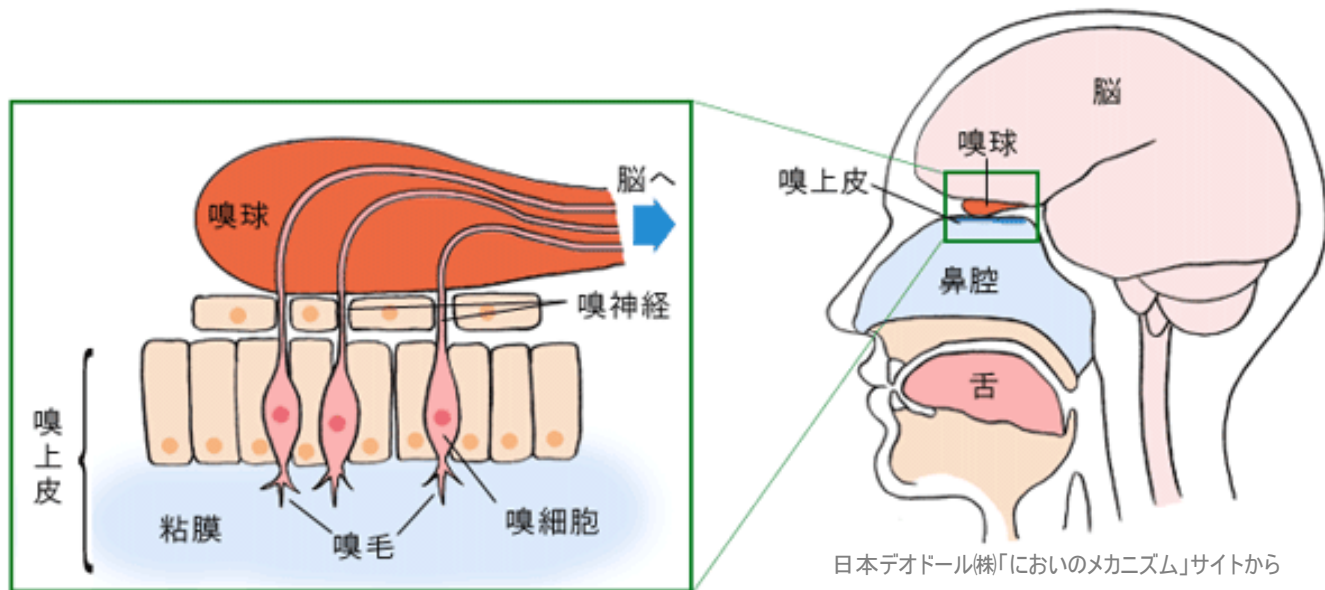


前回、タバコを吸うと生活の質を低下させる事を「味覚」を例に紹介しましたね。喫煙者は、タバコの有害な成分のせいで味覚が鈍感になっていても、自分ではそれに気がつきようがないのですから気の毒に思えます。今回は喫煙者が自分で気付かない事が他にもある事を紹介しましょう。それはタバコのニオイです。



上図にあるように、私たちは鼻の奥にある嗅毛でニオイをキャッチし、その信号が脳に送られてニオイを感じるわけです。これが嗅覚なのですが、嗅覚には同じニオイをしばらく嗅いでいると、そのニオイを感じなくなってしまう性質がある事を知っているでしょうか。この現象は“嗅覚疲労”と呼ばれ、嗅覚器は他の感覚器官に比べ著しく疲労しやすいそうです。

そこで、毎日定期的にタバコを吸っている喫煙者の状況を考えてみてください。喫煙者はタバコを吸うたびにそのニオイを嗅ぎ続けているわけですから、当然、タバコのニオイに対して嗅覚疲労をおこします。すると、自分の息や頭髪、衣服などからでるタバコのニオイを感じなくなっています。つまり、自分がタバコくさい事を自分では気付かないわけです。

まわりの人は「タバコくさい」と感じていても、それを口にすることはほとんどありません。だから、喫煙者はまわりの人に不快な思いをさせている事にも気付いていないかも知れません。

そう考えると、喫煙者は気の毒でかわいそうに思えてきませんか。タバコを吸い始めなければそんなふうに思われる事はありますが、身近な喫煙者にはこんな事も教えてあげてください。

産業デザイン科 奥田 恭久